自己点検・評価

自己点検・評価の流れ

１．項目の決定　　４月

２．中間点検　　５月２３日

３．公開保育　　１０月２４日
～地区研修会で公開保育をして評価を受ける～

４．山形県造形教育研究協議会　　１１月１５日
～造形活動について発表をして評価を受ける～

５．自己点検のまとめ（園内研修）　　２月２７日
～中間点検を振り返り、公開保育や造形の発表を受けて自己点検～

６．関係者評価（理事会）　　３月１６日

７．５の結果を園だより及びホームページで公開　　３月

５月自己点検　　「保育と計画の評価・反省」

○・・各職員の評価・反省　　※・・各職員の点検より全体で方向性を協議

１．自分の保育と計画の評価・反省は、行うようにしている

○保育日誌、経営案や活動を終えた後に行うようにしている

○子ども達の姿を見て進め方を考えている

○保育を行いながら、子どもの取り組む姿を見ながら反省する
（次回同じことを行なう時はこうしようなど）

○日誌に反省を書き残す。だが、十分でない

※反省も大切だが、良かったことを３つ目標に挙げてみることも良いよ思う。

２．評価・反省は観点を定めて行っている

○観点は定めていないが、遊びだったり、環境だったり、教師の役割だったり、援助だったりとさまざまである。

○特に定めていない。その時によると思う。

※(場面設定など)その時に応じた観点で良いのではないか

3．自分の保育と計画の評価･反省について次の保育と計画に生かせるように行っている

○生かせるよう、次の保育や計画に含めながら行っている。

○自分の援助が適切であったかを考え､他の先生に聞いたりしながら､次に生かせるように行っている。

○子どもの働きかけで工夫したこと、園児の言動で成長を感じられてことなど保育日誌へメモ

○学級経営案で計画をたてる。

○反省点を次にどう生かせるか他の職員に意見を聞いたりし、次に生かせるようにしている。

○助言していただいたことを、基にし保育に繋げている。

※経営案･教師の援助と反省を生かしている。

4．自分の保育を他の教師たちにも見てもらい、それをもとに検討している

5．互いに保育を見せ合って、検討し、評価･反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている

4・5を同じにと考える

○数年前は園としての取り組みで、他の教師の保育を見てもらっており、自分も見てもらったが、現在は自分での取り組みはない。

○なかなか見せ合う機会がないが、他の先生の保育を見て、自分の保育に繋げていきたい。

○全体の遊び(保育)では行っているところもあるが、個人としてとなると行っていない。

○研究保育は以前行っていたが、現在はしていない。体制が難しく研究協議をどうするか、人が集まれない。

○機会はないが、質問や疑問などを良く聞くようにしている。

○保育を見せ合うということはないが、学年合同で遊びの作り物などを行い、検討したり、反省したりしていると思う。

※体制が難しく、保育を見てもらったり、見せ合う洸とはできないが、違う方法ややり方で、自分の保育を振り返ったり、検討することはできると思う。気付いたことを伝える。

公開保育協議概要

1．公開保育で参観者より園の問いについて感想や意見を付箋紙に記入してもらう

「共感したこと・良かった・改善の方向性を導き出すための意見」一部分抜粋

・ブロックや映画館を自分たちで「協力」という言葉を出して作っていた。

・十分な遊び環境があるからこそ、子ども達独自のルールの中で主体的に遊ぶ姿があった。

・自然に片付けが進められていた。

・リレーで先生があまり入っていなかったので、子ども同士のかかわりが多い

・色水遊びでの友だち同士の会話が楽しそうだった。

・砂場でどうやって水を流すか話し合う姿

・リレーでペアになって小さい子の世話をしている。

「気付いたこと・質問・意見・疑問点」一部分抜粋

・色水コーナーでジュース屋となっているが(自園でも方向性を悩んでいる)

・年中組２クラスの環境構成の違いは配慮が必要な子げいるからなのか。

・教材を使う上でのルールについて(質問)

・泥だんご作りはどういうきっかけでスタートしたのか。ずっと続いてきた遊びなのか。

・水はいつころまで使うのか。

・泥だんご作りの中で、意見の違い手が出てしまった男の子にどのようにかかわり、声がけするか

2．経過報告

・プロジェクターで写真をみながら、本日の自ら選んだ遊びの振り返える。

・プロジェクターで写真をみながら、遊びの経過や５歳児の遊びを報告する。

3．グループワーク

園の問いに対して参観者の付箋紙を基に、３・４歳児グループと５歳児グループに分かれてグループワークを行う。

［３・４歳児グループ］

・友だちの姿を見て、気付いたり話し合う姿がある。

・気持ちを言葉で伝えるように援助する。繰り返し伝える。

・水はいつ頃まで使うか　　その時の天候、そろそろ終わりにしようと

５歳児が砂場の用具洗いをして水遊びは終わりにする

・テープを使い室内での色水遊びをしている

・教師同士の考えの違いを感じる。立場の違い、どんな言葉で伝えればよいか子どもによって変わる。

・縦のかかわり工夫しているところ

お面作りで教え合っていた。年長児との自然なかかわり。兄弟でのかかわりが影響する。

遊びの違いへの配慮。砂遊びでは場所、時間の工夫

［５歳児グループ］

・異年齢児のかかわりがあったことについて

朝の遊びで異年齢児がかかわっている。自分達で遊べるようになったれよくなった。

園低でのかかわりが増えた。

・友たちとのかかわりが生まれる活動

・思いを伝え合う姿

・遊びの継続性のために

帰りの会で、今日の姿を紹介（次の日における物は準備）

担任の願いが入る先生によって違ってしまう

・同じ学年の線聖が入るようにしている

・ミーティングで、共通理解を図る（遊びの継続を目指す）

・月１回で全員に話合えるように（週１回で遊びの様子を話す）

・大判用紙に園図をかいてどうするかを、みんなで話す。（次の日にも確認する）

・ホワイトボードでミーテイング

・片づけの工夫

・遊び始めの工夫が足りない。（先生を待つ子もいる。使っていいか先生に確認する子もいる）

・テラスの活用

造形教育研究協議概要

◆テーマ 「きらり☆夢中になるわたしたちの造形」

◆幼稚園・保育園・小学校低学年部会　　発表　まつかわ幼稚園　日下　翠　教諭

◎協議内容

[まつかわ幼稚園] 出席者からの意見や感想、質問

〇題材について

・みんなでおばけ大会をしようと誘導したこと

・折ることで立体感があるが、天井にはることで空間を使い自然と立体感がでる。

穴ぐらのような子どもの手が届く天井があることで良い環境である。

・幼稚園で経験しきたことが小学校でもいかされている。ごっこ遊びの中に造形活動がいっぱいある

〇夢中のなるための指導支援

・小学校では、朝顔でリース作りをした。幼稚園の経験が小学校につながっている。

・小学校で活動しようとすると、「幼稚園でしたことある」を子ども達が言う。

リースはどのように丸めたのか。自然物はどんな道具を使って接着するか。さつまいも版はどのように作ったのか。

〇共に学び合う場の工夫

・子ども同士が教え合うのはすばらしい。

・ハロウィンごっこで、学年を超えて教えあえる環境は良い。小学校は学年を超えた活動は難しい。

・幼稚園の活動は小学校の生活科と同じである。

・小学校は図工で技能を指導している。

・材料の購入や集め方について質問

園内研修　　**自己点検評価　３月（報告）**　　H31.3.15

点検項目「保育と計画の評価・反省」

5月自己点検評価の内容を「自ら選んだ遊び」の活動から具体的に評価してください。
項目①から④について付箋紙に記入してください。

［点検のポイント］
「行っている点」をピンクの付箋紙に記入してください。
「改善点」は水色の付箋紙に記入してください。
「疑問点」は黄緑の付箋紙の記入してください。

◇３月１３日（水）の園内研修内容
・付箋紙に記入してください。研修前まで作業を終了してください。
・「改善点」や「疑問点」について協議します。

◇自己点検・評価項目
①自ら選んだ遊びでの、自分の保育と計画の評価・反省を行うようにしている。
②自ら選んだ遊びの評価・反省は観点を定めて行っている。
③自ら選んだ遊びの評価・反省について次ぎの保育と計画に生かせるように行なっている。
④自ら選んだ遊びで、他の教師たちに見てもらい、それをもとに検討するにはどうしたら良いか。

園内研修より

①自ら選んだ遊びでの、自分の保育と計画の評価・反省を行うようにしている。

「行っている点」
・遊びの会議で行っている。
・やってみてこうした方がよいと感じたら、やり方を変えたり、材料を増やしたりした。
・学年に貼り出していることで、書いて反省することができた。

「改善点」
・遊びの会議で全体の評価、反省は行っているが、個人ではできているときと、できていないときがある。
・全体として見ていることが多かったので、個人としても行うようにしたい。

↓
これから各自意識付けして行っていく

・遊びの会議でしているときとそうでない時ある → 忘れずに行っていく

・遊びの会議での話し合いを行うが、用紙への記入をしていない時もあり、話し合いができるようにしていく必要がある。
・紙の未記入などもあるので、しっかり記録していきたい。

↓

・学年ごとの記録には、その日記録を記入することが難しい。どうすると記録を残せるか。

↓

きいろくみ➜入った先生が記入していく
遊戯場➜コーナーの記録が取りにくい
用紙を怪我の点検ファイルの中に入れて記入できるようにしていく

②自ら選んだ遊びの評価・反省は観点を定めて行っている。

「改善点」

・観点は定められていないと思う。行えていないと思う。
・自分たちの学年提案したものは行っているが、他の遊びではなかなかできなかったように思う。
・遊びの会議では、観点を定めるまで話し合いできない。

↓

・評価、反省の観点が定まっていない。遊びの会議で決めると良いか？

↓

観点とは・・・
期間どれくらいにするか➜1 週間でみていく
遊びの会議で、次の週の観点について話し合い決めていく

③自ら選んだ遊びの評価・反省について次ぎの保育と計画に生かせるように行なっている。

「行っている点」

・遊びの会議を通して行っている。
・木の実遊び→リース作り　リレーごっこ→運動会　と結びつけることができた。
・子どもの姿の中から、少しずつ遊びを変化させながら、活動に生かしていけるようにしている。
・遊びの会議で次の計画ができていると思う。
・遊びの会議でしているが、まだ不十分な点がある。

「改善点」

・遊びの会議は数年続いて記録が残っている。遊びの計画を立案する時に前の年を振り返ってみる。
・行うようにしているが、そのことを生かしての保育は、続いている事と、その時で途切れてしまうことがある。

↓ 継続していくには

・前年度のものの活用
使用していないものの活用　遊びの会議の時に、同じぐらいの時期に何をしていたか

を見ながら立案していく。

・残して置けるもの、残しておけないもの、場所の活用

みどりくみのテラス部分

外のもの　テラスに置いておけるのではないか

④自ら選んだ遊びで、他の教師たちに見てもらい、それをもとに検討するにはどうしたら良いか。

「行っている点」

・公開保育は良い方法だった。公開保育でみていただいた。

↓

＜公開保育＞

・小学校の先生にみていただく。

・町の方にも見ていただく。

↓

今までしてきたことを継続していく

↓

全員が参加できるようにしたいが

↓

付箋を活用して一人ひとりの意見が聞けるような会議をしていく

「改善点」

・遊びの会議の時、子どもの姿だけでなく教師のかかわりも話し合ってみてはどうか。

（教師と子どもとのかかわり）

「疑問点」

・公開保育？他園の先生に意見を聞きそれをもとに検討する。

自己点検・自己評価

テーマ「保育と計画」で取り組みました。５月に実施した１回目の点検・評価では、各教師が行っているという評価でした。３月中旬にはテーマの「保育と計画」を具体的に「自ら選んだ遊び」の内容で実施しました。「自ら選んだ遊び」とは、朝全員で遊んでいる活動で、子どもがしたい遊びを見つけて遊ぶ活動です。したい遊びを見つける背景には、子どもが遊んでいる姿からどんな経験をして欲しいか、子どもの成長を促すためにはどのような遊びが良いのかなど、教師がねらいを持って遊びを設定したり、子ども達とかかわる活動です。

改善点について教師間で話し合い、これからの取り組みについて協議しました。

自己点検・評価項目

①自ら選んだ遊びでの、自分の保育と計画の評価・反省を行うようにしている。
②自ら選んだ遊びの評価・反省は観点を定めて行っている。
③自ら選んだ遊びの評価・反省について次ぎの保育と計画に生かせるように行なっている。
④自ら選んだ遊びで、他の教師たちに見てもらい、それをもとに検討するにはどうしたら良いか。

今後に向けて改善案　　実施日　平成３１年３月１３日

①より

全体としての評価反省はしているが、教師個人として出来ていない。今後は各教師が意識しながら行っていくようにする。記録を残せるために、記入する者、記録用紙を置く場所を共通理解した。

②より

会議では観点を定めて話し合いしていない。会議で次の週の観点について話し合い決めていくようにする。

③より

数年間の遊びの記録を振り返っておらず、反省や評価を生かした保育は続いている事と、その時で途切れてしまうことがある。そのため、前年度の記録を活用し、同じくらいの時期に何をしていたか参考にしながら立案していくようにする。また、残しておける物、必要でないもの、場所の活用なども協議していくようにする。

④より

公開保育で小学校の先生や町の方に参観していただいていることを、継続していきたい。公開保育後の協議に全職員が参加するのは難しいため、付箋紙を活用して一人ひとりの意見を聞ける会議にしていきたい。

平成３０年度　第２回理事会　　会議録（抄）

学校法人高橋学園

１　開催日時　　平成３１年３月１６日（土）　１６：００から１７：３０

２　開催場所　　まつかわ幼稚園　会議室

３　現在の理事定数　６名　出席者　６名

４　出席者の確認

理事長	高橋恵史	理事	鈴木一好
理事	白岩けい子	理事	松田喜弘
理事	新藤ゆき	理事	高橋桂子
監事	山本幸一	監事	我妻長寿

５　理事長挨拶　　略

６　議長の選任　　理事長が行う。

７　報告・協議事項

【報告事項】

園長（理事長）から、前回以降の主な運営経過について報告あり。

（１）園運営の推移（抄）

今年度の推移を踏まえた課題については、後の運営方針で提起したい。

○指導計画・研修：指導計画を教育要領の改訂を踏まえて、見直した。

地区研活動・県協会研修に積極的に参加した。毎年行っている公開保育は地区研の当番園を兼ね実施した。県造形研究大会（東置賜大会　会場は生涯学習センター）の幼児・小学低学年部に参加し、日下教諭が研究発表を行った。

【協議事項】

（１）～（４）　略

（５）　自己点検の評価について　　資料５

園長：年度初めから進めてきた自己点検・評価は去る３月１３日の最終点検・評価で園内での評価を取りまとめて終了した。これまでの点検の経過はおおむね次のとおりである。

４月２８日　職員会議において、点検・評価のテーマと点検のポイントを４項目定めた。テーマ及びポイントは資料のとおりである。

５月２３日　園内研修会において、全体討議は行わず、教師個人毎に点検・評価を行った。

１０月２４日　置賜地区私立幼稚園・認定こども園協会事業として本園が公開保育を行い、参加者から多くの評価や意見をいただいた。概要は資料のとおり。

１１月１５日　山形県造形教育研究協議会東置賜大会において、造形に視点を置いた活動について発表し、関係者（幼稚園教諭等保育者幼児教育及び小学校）の評価や意見をいただいた。概要は資料のとおり。

３月１３日　園内研修会において、これまでの点検・評価や公開保育等での関係者の評価・意見を踏まえて、最終の点検・評価を行い、全体討議で反省や課題を取りまとめた。結果は資料のとおり。

以上の経過を踏まえ、幼稚園関係者として、これまでの点検・評価について、ご意見をいただきたい。

渋谷教頭：３月の点検結果について、補足します。異年齢交流を大切にしているが、年度初めの進入児が多い中で遊戯場に環境設定しても、どのように遊んだらいいのかわからず、交流とならない。各保育室での遊びになる傾向があった。

週末に翌週の遊びの環境（自由遊び）を設定することにしているが、その設定意図を園全体に共有するのが不徹底で、誰が、いつ設定しておくかもあいまいな部分があった。

会議での付箋の活用は既に取り入れているが、前年の「遊びの会議」の活用などやっていないものは今後やっていきたい。

新藤理事：日々の環境設定は大切だが、子どもたちの安全を優先しなければならない。日々の環境がある程度マンネリ化してもいいのではないか。準備や話し合いで時間がとられないようにしたい。

白岩理事：子どもたちは上の子の遊びを見ながらまねして遊びを覚えていく。大変かもしれないが異年齢交流は促していってほしい。

理事長：　年度初めの時期は異年齢交流は難しい。園児が園に慣れるのに合わせて、交流の環境も作っていく必要があると思う。また、環境設定も日々の計画ではなく、週単位で見直しているのでせめて、現状程度は（週１回の遊びの会議）継続していきたい。

これまでの点検と皆さんの意見を踏まえて、次年度の計画と実施にあたっていきたい。

以下略